

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

経営管理研究科 教授

重田 孝夫

【要約】

起業家に求められる資質や能力をすべて備えている人は多くありません。生成 AI のパーソナルアシスタントを導入することで、起業家は自身が不得手とする分野でも効率的に対応できるようになり、ビジネスアイデアをより円滑に実現することが可能になります。また、AI の支援により時間とリソースを節約し、より戦略的な意思決定に集中することができます。

例えば、技術畑の出身でマーケティングの知識・経験が乏しくても、生成 AI のパーソナルアシスタントは、市場調査や顧客データの分析を通じてトレンドや消費者行動のパターンを特定する支援ができるだけでなく、ブログ記事、ソーシャルメディア投稿、広告コピーなどのコンテンツを自動生成し、効率的にマーケティング活動を展開するのに役立ちます。

生成 AI パーソナルアシスタントとは、一般的な生成 AI チャットボットではなく、Open AI の GPTs や RAG を使った生成 AI のように専門分野別に学習させた特化型の生成 AI です。

【キーワード】

生成 AI 起業 個別支援 GPTs RAG

【目次】

1. はじめに
2. 起業家の課題と生成 AI のソリューション
3. 生成 AI パーソナルアシスタントの仕組みと特徴
4. 生成 AI パーソナルアシスタントのユースケース
5. 生成 AI パーソナルアシスタント導入による効果
6. 生成 AI パーソナルアシスタントの今後の展望と課題
7. まとめ

1. はじめに

1.1 起業家と生成 AI：新たなパートナーシップの誕生

近年、人工知能（AI）の急速な発展は、私たちの生活や働き方を大きく変えています。特に生成 AI の登場は、さまざまな産業に新しい可能性をもたらし、起業家の間でも注目を集めています。生成 AI は、業務効率と生産性を向上させ、人間がより高度な思考に集中できる環境を提供します。

これまで、起業家にはビジネスアイデアの創出、市場調査、資金調達、マーケティング、経営など多岐にわたる知識とスキルが求められてきました。しかし、一人で全てをこなすのは容易ではなく、多くの起業家が時間やリソースの不足に悩んでいます。こうした状況で、生成 AI は起業家にとって強力な味方となります。

1.2 生成 AI パーソナルアシスタントがもたらす変革

本論文では、生成 AI の中でも特に注目すべき「生成 AI パーソナルアシスタント」に焦点を当て、起業家の環境にどのような変革をもたらすかを考察します。生成 AI パーソナルアシスタントは、OpenAI の ChatGPT や Google の Gemini のような一般的なチャットボットとは異なり、特定の業務を支援するために特化された AI モデルです。例えば、投資家向けプレゼンテーション作成や社員のコーチング、広告戦略の立案など、起業家が日々直面する課題に対して、専門知識と経験に基づいたアドバイスを提供します。

生成 AI パーソナルアシスタントの導入によって、起業家は以下のようなメリットを得られます。

- ・ 時間とコストの削減：従来、人間が行っていた多くの作業を自動化し、時間とコストを大幅に削減します。
- ・ 生産性の向上：生成 AI によるアイデア出しや資料作成の支援で、業務を効率的に進められます。
- ・ 専門知識の補完：起業家の苦手分野をサポートし、より高度なビジネスを展開できるようになります。
- ・ データに基づいた意思決定：大量のデータを分析し、最適な意思決定をサポートします。

例えば、従来は農協経由でのみ販売していたブドウ栽培家が、一般消費者向けに食用ブドウの販売を始めるケースを考えてみましょう。栽培に関する知識や経験は豊富でも、マーケティングや経営については初心者の場合、Web サイトの構築や SNS 投稿、資金計画、人材確保などの幅広いスキルが必要になります。生成 AI パーソナルアシスタントは、それぞれの分野で専門家を雇うのと同じような支援を効率的に提供するため、こうした課題の解決に大いに役立ちます。

1.3 分野・テーマ別の個別支援

分野やテーマごとに人間の専門家に依頼すると、多大なコストが発生します。これは、受験生が国語や数学などの教科ごとに家庭教師を雇うのと似ています。しかし、生成 AI ならば僅かな

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

費用で、分野ごとの支援を受けられます。例えば、2024 年の衆議院選挙では、スピーチライターを雇ったことのない政治家が生成 AI を利用し、演説原稿の作成・チェックを行いました。その結果、演説会場の聴衆に合わせたスピーチ原稿が迅速かつ低コストで作成されました。

本論文では、生成 AI パーソナルアシスタントが起業家に与える影響を多角的に分析し、以下の点を明らかにします。

- ・ 生成 AI パーソナルアシスタントが解決する起業家の具体的な課題
- ・ 生成 AI パーソナルアシスタントの具体的なユースケース
- ・ 生成 AI パーソナルアシスタントの導入によって、起業家の働き方やビジネスモデルがどのように変わるか
- ・ 生成 AI パーソナルアシスタントの今後の展望と可能性

本論文が、特にリソースが限られている起業家やビジネスパーソンにとって、新たなビジネス展開や働き方の参考になれば幸いです。また、政治家や教育者、学生など幅広い方々にも役立つ内容となることを期待しています。

2. 起業家の課題と生成 AI のソリューション

2.1 起業家が抱える多様な課題

起業家は革新的なアイデアを形にし、事業を成功させるために、多岐にわたる課題に直面しています。これらの課題は、ビジネスモデルの構築、市場調査、資金調達、マーケティング、人材育成といった広範囲に及びます。

従来、起業家はこれらの課題を、限られた時間とリソースの中で、自らの経験と知識に頼って解決してきました。今日ではインターネット環境が整っているため、ラップトップ・パソコンやスマートフォンを使い、グーグルやダックダックゴーで調べることで、必要な知識や情報を迅速に得ることが可能です。しかし、多くの問題に迅速かつ柔軟に対応することが求められる現代において、一から調査し、すべてのタスクをこなす時間的余裕はありません。

具体的に、起業家が抱える主な課題は以下の通りです。

- ・ 専門知識の不足：技術革新が進み、市場の変化も激しい中、すべての分野に精通することは難しく、特に専門性の高い分野での知識不足が課題となります。
- ・ 時間とリソースの制約：限られた時間と資金の中で多くのタスクを迅速にこなす必要があります。
- ・ 迅速かつ柔軟な対応：テクノロジーや市場環境の急速な変化により、ビジネスモデルや戦略の迅速な見直しが求められます。

2.2 解決できる課題

生成 AI パーソナルアシスタントは、上記の課題を解決するための強力なツールです。生成 AI

が対応できる具体的な課題は以下の通りです。

- ・ 市場調査の効率化：生成 AI は、大量のデータを短時間で分析し、市場トレンドや顧客ニーズを正確に把握できます。これにより、より効果的なマーケティング戦略の立案が可能になります。
- ・ コンテンツ作成の自動化：ブログ記事、SNS 投稿、年次報告書、プレスリリースなど多様なコンテンツを生成することで、コンテンツマーケティングの効率化が図れます。
- ・ ビジネスモデルの検証：多様なビジネスモデルを迅速にシミュレーションし、最適なモデルを選択できます。
- ・ 資金調達資料の作成：投資家向けのプレゼンテーション資料やビジネスプランを短時間で高品質に作成できます。
- ・ アイデア創出の支援：過去のデータやトレンドを基に、新しいビジネスアイデアの創出を支援します。
- ・ 人材育成の支援：人材育成プログラムの作成や社員のコーチングを支援します。

2.3 生成 AI パーソナルアシスタントがもたらすメリット

生成 AI パーソナルアシスタントは、単なるツールではなく、専門知識を持つパートナーとしてビジネス成功を強力にサポートします。生成 AI パーソナルアシスタントを導入することで、起業家は以下のメリットを享受できます。

- ・ 時間とコストの削減：従来手作業で行っていた業務を自動化することで、時間とコストを大幅に削減できます。
- ・ 生産性の向上：生成 AI が様々なタスクを支援することで、起業家はより付加価値の高い業務に集中でき、生産性が向上します。
- ・ 意思決定の質の向上：データに基づく客観的な分析結果を提供し、質の高い意思決定をサポートします。
- ・ リスクの軽減：計画や施策の展開に伴うリスクを事前に想定し、対策を講じることが可能です。
- ・ 出来栄の評価：投資家向けのピッチや社員のコーチングなどでの「評価」を得ることにより、実行結果の改善やスキルアップが図れます。例えば、アメリカのケネディ大統領は若い頃から有名な政治家のスピーチを学びましたが、1953 年に上院議員に就任して以降は、スピーチライターのテッド・ソレンセンから助言とフィードバックを受けてさらに上達し、1961 年の大統領就任演説や 1963 年のベルリンでの有名な演説を生み出しました。

生成 AI パーソナルアシスタントは、一般の Web 情報ではなく、特定の分野の知識やデータを学習した AI であるため、回答の正確性が高く、誤情報の混入やハルシネーションのリスクが抑えられます。

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

3. 生成 AI パーソナルアシスタントの仕組みと特徴

3.1 生成 AI の基礎知識

生成 AI パーソナルアシスタントの仕組みを理解するには、生成 AI の基礎知識が欠かせません。生成 AI は、学習した情報をもとに、指示（プロンプト）に応じて新しいテキスト、画像、音楽などを生成する技術です。大規模なデータセットを学習することで、人間が作成したような自然なコンテンツを生成します。

生成 AI の基盤となる技術には以下が含まれます。

- ・人工ニューラルネットワーク：人間の脳神経回路を模倣した数学モデルで、大量のデータを学習することで複雑なパターンを認識します。
- ・大規模言語モデル（LLM）：膨大なデータセットで訓練された AI モデルで、次に来る単語を確率的に予測し、人間の言葉の構文や意味を理解します。
- ・自然言語処理（NLP）：人間の自然言語をコンピュータが理解し処理する技術で、生成 AI の対話機能の基盤です。
- ・機械学習：過去のデータから学習して予測や新しい情報生成を行う技術で、例えば将棋の対局データから良い手を自動で学ぶことが可能です。

3.2 大規模言語モデル（LLM）とベクトル検索

生成 AI におけるベクトル検索は、大規模データから関連情報を迅速かつ正確に検索し、生成モデルに提供する重要な技術です。役割は以下の通りです。

- ・関連情報の抽出：テキスト、画像、音声などをベクトルに変換し、類似度に基づいて関連情報を検索します。
- ・生成モデルへの入力：検索結果を生成モデルの入力として使用し、より文脈に適したコンテンツ生成を支援します。
- ・パーソナライズ：ユーザーの検索履歴や嗜好に基づき、パーソナライズされた情報を提供します。

ただし、ベクトル検索には以下の課題があります。

- ・次元数の問題：高次元ベクトル空間では計算コストが増え、検索に時間がかかる場合があります。
 - ・類似度の評価：コサイン類似度など評価方法が複数あり、データやタスクに最適なものを選ぶ必要があります。
 - ・データの質：ベクトル化されたデータの質が検索精度に大きく影響します。
 - ・解釈の困難さ：高次元ベクトルは意味の理解が難しく、モデルの解釈が困難です。
 - ・前処理の重要性：トークン化、ストップワード除去などの前処理がベクトル化には不可欠です。
- ベクトル検索は高度な自然言語処理を可能にする重要な技術ですが、性能はデータの質やベク

トル化手法など様々な要素に左右されます。

3.3 プロンプト

生成 AI は、プロンプト（指令文）の工夫が必要です。例えば「タイガー・ウッズのメジャー優勝数は？」と聞くよりも、「ゴルフのメジャー大会の種類とタイガー・ウッズの優勝実績を教えて」と具体的に問うことで、より精確な回答が得られる可能性が高まります。

また、正解が必ずしも存在しない質問、例えば「15 歳の娘への誕生日プレゼントに何がおすすすめ？」などは、対象者の嗜好や過去の購入履歴をプロンプトに含めることで、より適した回答が得られます。このようにプロンプトの質が結果に大きく影響するため、プロンプト・エンジニアリングが重要です。

3.4 生成 AI パーソナルアシスタントの仕組み

生成 AI パーソナルアシスタントは、以下のような作業を通して構築します。

- ・ 専門知識の学習：現在の生成 AI は特定分野の知識をすべて学んでいるわけではないため、使用する分野の知識を学習させる必要があります。
- ・ 手順や役割の明確化：生成 AI の役割、対象ユーザー、タスク、入力・出力形式などを分野ごとに明確に設定します。これにより利用の際にプロンプト作成の手間が軽減されます。
- ・ サンプルの学習：既知の答えがない質問への対応力を高めるため、実例を学習させることで精度を向上させます。
- ・ フィードバックによる強化学習：ユーザーからのフィードバックを基にモデルを改善し、より正確な情報を提供できるようになります。

3.5 生成 AI パーソナルアシスタントの特徴

生成 AI パーソナルアシスタントは、一般のチャットボットに比べて以下の特徴を持ちます。

- ・ 専門知識の習得：特定分野の知識を学習し、高度な支援を提供します。
- ・ 評価能力：専門分野での計画やプレゼンテーションを評価し、フィードバックを提供します。
- ・ パーソナライズ：ユーザーの目標や過去の行動を学習し、個別対応します。

表：生成 AI パーソナルアシスタントと汎用生成 AI の違い

	生成 AI パーソナルアシスタント	汎用生成 AI（例：GPT-4）
目的	特定のタスクや分野に特化した対応	幅広いタスクや分野に対応
学習データ	特定分野のデータを重点的に使用	多様な分野・形式のデータを総合的に使用
性能	専門分野において高いパフォーマンス	多様なタスクで安定した性能

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

使用用途	特定の質問応答、文書生成、データ分析など専門用途	一般的な質問応答、生成タスク、対話全般
モデルのサイズ	分野特化により小規模で軽量の設計が多い	より大規模で汎用的な構造
更新頻度	特定タスクのニーズに合わせて更新	全般的な改善や大規模アップデートが中心
利用のしやすさ	専門的知識があるユーザーには直感的で扱いやすい	一般ユーザーでも直感的に利用しやすい
柔軟性	特定の分野や指示において最適化されている	幅広いタスクに柔軟に対応可能
カスタマイズ	特定タスクに合わせてさらにカスタマイズ可能	一般用途のまま使われることが多い
利用コスト	特定分野限定で効率化されるため低コストで運用可能	高性能であるがコストも高い
例	医療、法律、金融、教育など専門分野の GPT	チャット、文章生成、一般知識の回答など多用途の GPT-4

一方、繰り返し利用する頻度の少ないタスクに対して、生成 AI パーソナルアシスタントを作成するのは個人や企業にとって効率的ではありません。これが導入に向けての最大の課題でしょう。これに対しては例えば、各地方自治体が相互に利用できるプラットフォームを政府が提供するという形で対応することが求められます。

3.6 GPTs

OpenAI には有料会員向けに GPTs というユーザーがカスタマイズできる生成 AI サービスがあります。そしてアップル社のアプリストアと同じように一般ユーザーが作成した GPT が公開されている GPT ストアがあり、数百万の GPTs が利用可能です。

ビジネス戦略用 GPT や広告に利用する特定のテーマの画像生成用の GPT など多種多様なものが存在していますので、利用用途に応じたものを探して使ってみるのがよいでしょう。利用目的を指定すると、どんな GPTs があるのかを探してくれる GPT も存在します。

指示文や学習データをアップロードして自分で GPT を作った場合には、それらの情報を将来、自社専用のサーバーに格納して、それを利用したオリジナルの生成 AI を構築することが可能です。

4. 生成 AI パーソナルアシスタントのユースケース

生成 AI パーソナルアシスタントは、起業家の様々な業務を効率化し、新たな価値を生み出す可能性をもっています。ここでは、具体的な活用事例を 4 つの分野に分けてご紹介します。

4.1 マーケティング分野

市場調査：

- ・ 市場データを分析し、顧客のニーズやトレンドを迅速に把握できます。
- ・ 競合他社の動向を分析し、自社の強みと弱みを明確化できます。
- ・ 新規市場の開拓に役立つ情報を収集、提供できます。

コンテンツ作成：

- ・ ブログ記事、SNS 投稿、Web サイト、年次報告書、プレスリリースなどのコンテンツを作成できます。
- ・ ターゲット層に合わせたパーソナライズされたコンテンツを作成できます。
- ・ それらのコンテンツの評価、改善のための助言を提供できます。
- ・ A/B テストの結果に基づいて、コンテンツを最適化できます。

広告戦略：

- ・ ターゲット層に合わせた広告コピーを作成できます。
- ・ 広告効果を測定し、広告戦略を改善できます。

4.2 ビジネスモデル構築

アイデア検証：

- ・ 新しいビジネスアイデアを多角的に検討できます。
- ・ 競合との差別化ポイントを明確化できます。

ビジネスプラン作成：

- ・ ビジネスプランの骨子を自動生成できます。
- ・ 資金調達に必要な情報を効率的にまとめることができます。

4.3 資金調達

投資家向け資料作成：

- ・ 投資家向けのプレゼンテーション資料やビジネスプランを、短時間で高品質に作成できます。
- ・ 投資家の質問に迅速かつ的確に回答できます。

ピッチ練習：

- ・ ピッチ練習の相手として、AI を活用できます。
- ・ 投資家からのフィードバックをシミュレーションできます。

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

4.4 人材育成

社員教育：

- ・ 社員向けの研修資料や教育プログラムを自動生成できます。
- ・ 個々の社員に合わせた学習プランを作成できます。

コーチング：

- ・ 社員のスキルアップを支援するコーチングを提供できます。
- ・ キャリアプランの作成を支援できます。

4.5 その他

顧客対応：

- ・ 顧客の購買履歴や属性に基づいたパーソナライズされた提案を行うことができます。
- ・ チャットボット機能を活用し、顧客からの問い合わせに自動で対応できます。

プロジェクト管理：

- ・ タスク管理、スケジュール管理、進捗管理などを支援できます。

アイデア創出：

- ・ 過去のデータやトレンドを基に、新たなビジネスアイデアを考案することができます。

上記はあくまで一例であり、生成 AI の活用方法は、企業の規模や業種、そして起業家のニーズによって多岐にわたります。

5. 生成 AI パーソナルアシスタント導入による効果

生成 AI パーソナルアシスタントの導入は、企業、特にスタートアップ企業において、多岐にわたる効果をもたらします。

5.1 生産性の向上

- ・ 作業時間の短縮：従来、人間が長時間かけて行っていた作業を生成 AI が短時間で処理できるようになります。例えば、市場調査やレポート作成、プレゼンテーション資料作成の時間が大幅に削減されます。多くの企業で事例が報告されており、レポート作成の作業時間が 2 割から 6 割削減できる場合もあります。
- ・ 創造的な業務へのシフト：ルーティンワークの自動化により、従業員はより創造的な業務に集中できるようになります。
- ・ 人材不足の補完：生成 AI は多様なタスクを同時に処理できるため、人材不足の補完としても役立ちます。

5.2 意思決定の質の向上

- ・ データに基づいた意思決定：大量のデータを分析し、客観的な情報を提供することで、精度の高い意思決定を支援します。
- ・ リスクの軽減：新規事業の立ち上げや戦略展開に伴うリスクを事前に想定し、回避できるようにします。
- ・ 迅速な意思決定：情報収集から意思決定までのプロセスを高速化し、アジャイルな対応が可能となります。

5.3 コスト削減

- ・ 人件費の削減：ルーティンワークの自動化やレポート作成の効率化により、人件費を削減できます。
- ・ 外部委託費の削減：外部コンサルタントやマーケティング会社、翻訳会社などへの依頼を減らすことが可能です。
- ・ 投資回収の可能性：生成 AI ツールへの初期投資は、生産性向上やコスト削減によって短期間で回収できる可能性があります。

5.4 イノベーションの促進

- ・ アイデア創出の加速：既存のデータや情報を組み合わせ、新たなアイデアを生み出すサポートができます。
- ・ 実験の加速：新しいビジネスモデルや製品の検証を迅速に行えます。
- ・ 市場変化への対応：市場環境の変化に迅速に対応し、新たなビジネスチャンスを見出します。

5.5 顧客満足度の向上

- ・ パーソナライズされたサービス：顧客一人ひとりのニーズに合わせたサービスを提供できます。
- ・ 迅速な対応：顧客からの問い合わせに迅速に対応できます。
- ・ 製品やサービスの質の向上：顧客の声を分析し、製品やサービスの改善に役立ちます。

生成 AI パーソナルアシスタントの導入は、企業の生産性向上、意思決定の質の向上、コスト削減、イノベーションの促進、顧客満足度の向上といった多岐にわたる効果をもたらします。ただし、データの質、セキュリティ、倫理的な課題などの問題もあります。これらの課題を克服し、生成 AI を効果的に活用することで、企業は持続的な成長を実現できる可能性を秘めています。

6. 生成 AI パーソナルアシスタントの今後の展望と課題

生成 AI パーソナルアシスタントは、その専門性と幅広い応用可能性から、今後も急速な普及が期待されます。本セクションでは、生成 AI パーソナルアシスタントの今後の展望と、導入に

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

際しての課題を考察します。

6.1 今後の展望

- ・ 高度な専門性：生成 AI は、より高度な専門知識を習得し、特定の業界や業務に特化したパーソナライズ支援を提供できるようになるでしょう。すでに医療分野では、診断支援や医薬品開発の支援といった用途での活用が進んでいます。今後は、産官学の協力を通じて分野別にベースモデルが開発され、プロンプトで個別情報を補う、または RAG（Retrieval-Augmented Generation）を通じて提供するといった形が広く普及していく見込みです。
- ・ 多様なモダリティ対応：生成 AI は、テキストだけでなく、画像、音声、動画など複数の形式のデータを処理し、より人間らしいコミュニケーションを実現するでしょう。
- ・ 自律学習能力の向上：過去のデータだけでなく、リアルタイム情報を収集し自己学習することで、さらに高度なタスク実行が可能になると期待されます。
- ・ 自律的なタスク遂行：2024 年 10 月に富士通がビデオ会議の会話内容から業務データを推測し、関連資料を自動生成する自律型 AI サービスを発表。スタートアップ企業サカナ AI は実験から論文執筆までを自動化するシステムを開発したと発表しています。将来的には、コンシエルジュ的な AI に質問すると、複数の AI が連携してタスクを自律的に遂行する形が一般化すると予想されます。

6.2 課題と解決策

生成 AI パーソナルアシスタントの活用にあたっては、以下の課題に留意する必要があります。

- ・ 倫理的な問題：学習データに含まれる偏見がコンテンツに反映される可能性があります。公平性を確保するため、多様なデータを用いて学習することが求められます。
- ・ 著作権：生成 AI が生成したコンテンツの著作権帰属の問題があり、明確なガイドラインが必要です。
- ・ プライバシー：ユーザーの個人情報保護の観点から、厳重なセキュリティ対策が求められます。
- ・ 環境への負荷：生成 AI は、大規模モデルの学習やサーバーでの大量計算により、膨大な電力を消費します。増大する需要に応じつつ環境負荷を抑えることが社会的課題です。
- ・ 説明可能性：生成 AI の判断過程がブラックボックス化しており、その決定理由の説明が難しい場合があります。

これらの課題に対して、以下の対策が考えられます。

- ・ 多様なステークホルダーとの連携：政府、企業、研究機関が連携して倫理的なガイドラインを策定し、社会全体で合意を形成します。
- ・ 透明性の確保：生成 AI のアルゴリズムや学習データの公開を進め、透明性を高めます。
- ・ 環境への配慮：消費電力が少ない AI モデルの開発に加え、用途に応じて電力消費を抑えるモデルを活用します。

これらの課題を克服し、生成 AI を社会の利益に活用するためには、さまざまなステークホルダーが協力し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいく必要があります。

7. まとめ

生成 AI パーソナルアシスタントは、私たちの働き方や生活を大きく変え、企業の成長を加速し、社会全体の進歩に貢献する可能性を秘めています。

生成 AI パーソナルアシスタントが普及する未来社会では、次のような変化が期待されます。

- ・ 個人の能力拡張：生成 AI は人間の能力を拡張し、より創造的な活動に集中できる環境を提供します。
- ・ ビジネスモデルの変革：生成 AI を活用した新しいビジネスモデルが誕生し、既存の業界や企業に配慮しながら、社会にやさしいイノベーションをもたらすでしょう。
- ・ 生産性の向上：少子高齢化が進み労働人口が減少する社会においても、生産性の向上が実現し、より豊かな社会を目指すことが可能です。

人間と AI の共存：人間と AI が協力し合い、複雑な社会課題を解決していくことが期待されます。産官学による連携促進を図れば、生成 AI パーソナルアシスタントが社会全体で利用され、必要に応じて便利に使える仕組みが構築されることが期待されます。例えば、中学生や高校生、大学生の学校の授業を支援する生成 AI を、各学校や教師単位ではなく、国レベルで共同開発することで、導入のハードルが下がり、より多くの学生が恩恵を受けられるでしょう。同様に、地方再生や復興計画の質向上を目指した生成 AI を産官学が共同で開発すれば、地方自治体はリソースをより有効に活用できるようになります。

また、日本では他国に比べてアントレプレナーの割合が相対的に低いとされていますが、ビジネス分野で生成 AI パーソナルアシスタントを活用することで成功する起業家が増えれば、Society 5.0 時代にふさわしい産業構造の転換を円滑に進めることが期待されます。

参考文献

- ・ ハムザ・ムッダシル他「AI による意思決定の質は、ほぼ人間の CEO を凌駕する」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー、2024 年 12 月 2 日、原文は "AI Can (Mostly) Outperform Human CEOs" Harvard Business Review, September 26, 2024
- ・ グラハム・ケニー、ガンナ・ボグレブナ「戦略変更を事前に検証できる生成 AI とデジタルツインの活用」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー、2024 年 11 月 26 日、原文は "Digital Twins Can Help You Make Better Strategic Decisions" Harvard Business Review, September 23, 2024
- ・ ジュリアン・デ・フレイタス、エリー・オフエック「ブランドマネジメントを AI で強化する」Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー、2024 年 12 月号 原文は "How AI Can Power

生成 AI パーソナルアシスタントが拓く起業の新時代

Brand Management” Harvard Business Review, September-October 2024

- ・本郷 喜千著『ChatGPT 誰でも 1 時間でできる！ はじめての GPTs のつくり方』standards 2024 年
- ・日立製作所 Generative AI センター監修『実践 生成 AI の教科書』株式会社リックテレコム 2024 年
- ・「25 年は AI 「代理人」 が働く」日本経済新聞 2024 年 12 月 30 日
- ・「気が利く AI マルチに働く ツールから相談相手へ変わる関係」日本経済新聞 2025 年 1 月 1 日